#65
埼玉大学産学官連携協議会
News Letter
［ニュース レター］
2026年10月発行
https://www.saitama-u.ac.jp/research/coalition/kyougi/kyougi_about/


巻頭言

# 『未来志向』で拓く産学官連携



埼玉大学産学官連携協議会
新会長
**福岡 聡**
FUKUOKA Satoshi
埼玉経済同友会
代表幹事

6月15日に開催されました埼玉大学産学官連携協議会定期総会において、会長の大役を仰せつかりました福岡聡です。

本協議会は平成12年の設立以来、国立大学の産学官連携組織の中でも全国有数の規模へと発展してまいりました。これまでご尽力いただいた関係者の皆様に心より敬意と感謝を申し上げます。

私は、埼玉経済同友会代表幹事、埼玉りそな銀行会長、埼玉県人会会長という立場でもあり、増田前会長が掲げられた「埼玉経済界と埼玉大学の架け橋となる」という理念はまさに想いを同じくするところです。この理念をしっかりと受け継ぎ、産学官連携の一層の充実に努めてまいります。

さて、時代は人口減少や人手不足、国際情勢の変化、AI技術の急進展、自然災害の激甚化など未曾有の変化を迎えています。ドラッカーは「未来を予測する最も良い方法は自ら未来を創ることである」と述べています。まさに、不確実な時代だからこそ、未来志向で変化に向き合い、産学官各々が知見や強みを持ち寄り、共に新たな価値を創造していくことが求められています。

なお、埼玉経済同友会の本年度活動テーマは「未来志向で挑もう！構造変化の時代の成長戦略」です。ここには、未来は今である、今こそ変化を機会として捉え、積極果敢に未来の成長創出に挑戦しよう、との思いを込めています。

本協議会においても、埼玉大学の「知」と、会員企業・団体の技術・経験・実践力を結び付け、地域や産業が抱える課題の解決や、新たな価値の創造に取り組んでまいります。その積み重ねが会員の皆様ならびに埼玉県の持続的な発展、そして「日本一暮らしやすい埼玉」の実現につながるものと確信しています。

会員の皆様には、本協議会の活動に積極的にご参画いただき、共に未来を切り拓いてまいりますようお願い申し上げ、会長就任のご挨拶といたします。

CONTENTS >>>

01 巻頭言「『未来志向』で拓く産学官連携」埼玉大学産学官連携協議会 新会長 福岡 聡
02 「第27回 定期総会・埼玉大学特別講演」を開催
03 「次代を拓く埼玉ものづくりフォーラム #1」を後援
04 研究会活動「埼玉グリーンインフラSDGs研究会」「スタートアップ・新規事業創出研究会」
05 研究会活動「データサイエンス研究会」／「大学見本市2026 ～イノベーション・ジャパン」へ出展
06 新会員紹介 ／「3D-CAD&3Dプリンター研修（さいたま市連携事業）」を実施
07 会員企業訪問記「株式会社モリタ東京製作所」
08 オープンイノベーションセンター 産学官連携活動カレンダー

Report 1

# 「第27回定期総会・埼玉大学特別講演」を開催


副会長挨拶
（後藤副会長）


来賓祝辞
（関東経済産業局地域経済部/
濱田部長）


来賓祝辞
（埼玉県産業労働部/
村井課長）


来賓祝辞
（さいたま市経済局/
飯塚係長）


学長挨拶
（埼玉大学/重原学長）


新会長挨拶
（福岡会長）

埼玉大学産学官連携協議会では、2026年6月15日（月）ソニックシティビル4階市民ホールにおいて、第27回定期総会（第1部）、埼玉大学特別講演（第2部）および交流会（第3部）を開催しました。協議会会員を中心に、129名の方にお越しいただきました。

第1部の定期総会では、後藤誠副会長の挨拶にはじまり、ご来賓の経済産業省 関東経済産業局 地域経済部長 濱田豊様、埼玉県 産業労働部長 萩原啓様（新産業育成課長 村井秀成様 代読）、さいたま市 経済局長 石井保様（企業成長推進課係長 飯塚博幸様 代読）からご祝辞を賜りました。また、埼玉大学 重原孝臣学長より挨拶がありました。

総会の定足数を確認し、後藤副会長が議長として議事を進行しました。各議案については事務局より報告および提案を行い、全ての議案が原案通り承認されました。2026年度事業計画案および予算案では、研究会活動の拡充や共催行事を通じたシーズ発信の強化など、本協議会の活動活性化に向けた各種提案を盛り込んでおります。議案承認後には、新たに就任された福岡聡会長をはじめ運営委員に就任された7名の方から、ご挨拶をいただきました。



第1部 定期総会

第2部の埼玉大学特別講演では、3件の講演を実施しました。

まず、「国際連携ですすめるX線天文衛星の開発と観測」と題し、埼玉大学大学院理工学研究科 田代信教授より、JAXA・NASA・ESAなど世界の研究機関と連携して進めるX線天文衛星「XRISM」プロジェクトについてご講演いただきました。国際共同研究による最先端の観測技術や宇宙の成り立ちを解き明かす研究成果に加え、大規模プロジェクトを支える国際協力の重要性について紹介され、世界を舞台に活躍する埼玉大学の研究力が示されました。

続いて、「『多文化共修』がもたらす埼玉大学のソーシャルインパクト－大学は地方と世界をつなげるか？－」と題

## 埼玉大学産学官連携協議会 第27回定期総会 各号議案議決結果

**定足数**

会員数（6月15日時点）…… 235会員
出席会員数…… 51会員
議長宛委任状受領数…… 68会員

会員数235に対し、出席会員数および議長宛の委任状受領数を合わせて119会員となり、当協議会規約第4章第17条（総会の定足数）に定める、総会の成立に必要な3分の1以上の出席を満たしました。

**各号議案**

| | |
|---|---|
| 第1号議案 | 2025年度事業報告 |
| 第2号議案 | 2025年度決算 |
| 第3号議案 | 2026年度事業計画 |
| 第4号議案 | 2026年度予算 |
| 第5号議案 | 役員の改選について |

**結果**

出席会員の賛成件数と議長宛の委任状件数を合計した結果、すべての議案について過半数の賛成をもって可決されました。

し、埼玉大学大学院人文社会科学研究科 長沢誠教授より、地域社会の多文化化が進む中、日本人学生と留学生が共に学び、対話・協働を通じて地域課題の解決に取り組む教育について紹介いただきました。大学の国際化を地域の人的・社会的インフラづくりとして捉え、地域と世界をつなぐ新たな人材育成のあり方が示されました。

最後に、「産学官金協働による彩の国Komvuxプラットフォームについて」と題し、埼玉大学 ALL SAITAMAミライ機構 江口幸治教授より、大学・自治体・企業・金融機関が連携し、地域課題の解決と人材育成を目指すリカレント教育プラットフォームについて紹介いただきました。経営者から若手社員までを対象とした体系的な学びの提供や、地域産業の競争力強化につながる新たな教育基盤への期待が示されました。

第3部の交流会には引き続き100名の方にご参加いただきました。古屋久昭副会長の乾杯の後、埼玉大学オープンイノベーションセンターの産学官連携コーディネーター6名及び知的財産コーディネーター2名の紹介と挨拶が行われました。


埼玉大学特別講演
（田代教授）


埼玉大学特別講演
（長沢教授）


埼玉大学特別講演
（江口教授）


第3部 交流会（懇親会）

会場では講師や参加者の皆様の間で活発な交流が行われ、盛況のうちに親睦が深められました。最後に、埼玉大学 戸澤譲理事・副学長による閉会の挨拶をもって終了しました。

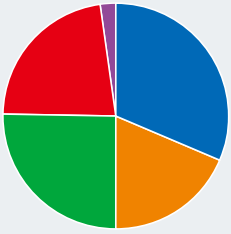
今後も、会員企業・団体の皆様や大学教員との交流の機会を継続してご提供できるよう努めてまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**参加者アンケートより**

**大学との連携に何を求めますか**
（複数回答可）

| | |
|---|---|
| 共同研究・技術開発・技術指導 | 31 |
| 技術者等の人材育成 | 18 |
| 講演会・セミナーなどでの情報提供 | 25 |
| 学生の就職支援 | 22 |
| その他※ | 2 |

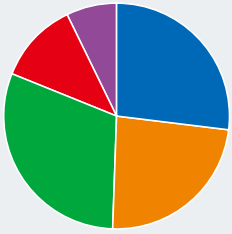
※次世代型社会共創モデル、埼玉の産業・地元企業を知る機会を低学年から設けること



**研究会活動について、今後どのような分野の研究会があれば参加したいと思いますか**（複数回答可）

| | |
|---|---|
| ものつくり分野 | 23 |
| グリーン・環境分野 | 20 |
| IT・情報システム分野 | 26 |
| ライフサイエンス分野 | 10 |
| その他※ | 6 |

※AI分野、企業経営分野、サーキュラーエコノミー分野、ジェントロジィ分野、スタートアップ分野、生産効率化分野、ダイバーシティ分野、異業種の若手社員がともに活動できるワークショップ



Report 2

## 「次代を拓く埼玉ものづくりフォーラム#1」を後援

埼玉大学ALL SAITAMAミライ機構オープンイノベーションセンターが、2026年6月22日（月）、渋沢MIXにおいて「次代を拓く埼玉ものづくりフォーラム#1 −経営者に聞く、ものづくりの未来−」を開催し、産学官連携協議会は本事業を後援いたしました。当日は企業、自治体、支援機関、大学などから44名が参加し、埼玉県ものづくり産業の未来について理解を深めました。

第1部では、株式会社産経新聞社さいたま総局長 那須慎一氏が埼玉県製造業の現状と可能性について講演しました。第2部では、セキネシール工業株式会社代表取締役社長 関根俊直氏が、伝統的な紙すき技術を活用した製品開発や、「温故知新」の考え方による新たな価値創造への取組を紹介しました。第3部では、株式会社デジタルベリーが製造業におけるデジタル活用事例を紹介し、交流会では参加者同士が活発に情報交換を行いました。

産学官金のネットワークを活かし、地域企業の価値創造を支援する場として継続的に開催される本フォーラムにつきまして、産学官連携協議会も引き続き後援を予定しております。



Report 3

# 埼玉大学産学官連携協議会 研究会活動

## 埼玉グリーンインフラSDGs研究会

代表：藤野 毅（大学院理工学研究科・教授）　事務局：村井 亮介（産学官連携コーディネーター）

埼玉グリーンインフラSDGs研究会では、令和8年4月17日（金）に埼玉大学研究機構棟において第1回研究会を開催しました。今回の研究会には学外18名、学内6名が参加し、活発な情報交換が行われました。研究会では昨年度の活動報告に加え、埼玉県農業技術研究センターによるモリンガと養鶏を組み合わせた地域循環共生圏構築に向けた取組紹介、モリンガの森プロジェクト協会による活動報告、さらにアグリビジネスに関する話題提供などがあり、多様な視点からグリーンインフラの可能性について議論しました。

研究会終了後にはフリーディスカッションの時間を設け、会員相互の交流を深めるとともに、今後の活動の方向性について意見交換を行いました。

本研究会では、見沼田圃におけるモリンガ栽培を軸として、環境保全と地域活性化の両立を目指した活動を継続しています。近年はモリンガ資源の新たな利活用にも取り組んでおり、モリンガ由来の改質炭によるPFAS吸着技術や、人工芝に用いられるゴムチップの代替材料としてのモリンガチップの開発を進めています。これらの成果は企業との連携事業にも発展しており、地域課題や環境問題の解決につながる技術として期待されています。

本研究会は今年度が最終年度となりますが、これまでの成果を整理・総括するとともに、産学官民の連携による持続可能な地域づくりの発信を続けてまいります。新たな会員の参加も歓迎しておりますので、ご関心のある方はぜひご参加ください。



人工芝用チップ



PFAS対応型炭

## スタートアップ・新規事業創出研究会

代表：赤羽根 康男（オープンイノベーションセンター・客員教授）、本間 俊司（オープンイノベーションセンター・教授）　事務局：髙橋 英紀（産学官連携コーディネーター）

2026年3月26日（木）、第4回スタートアップ・新規事業創出研究会を埼玉大学研究機構棟大会議室において開催し、会員企業、学生、教職員など47名が参加しました。本研究会は、スタートアップやアントレプレナーシップへの理解を深め、新たなビジネスやイノベーションの創出を目的として継続開催しているものです。

第1部では、本年度から全学展開した埼玉大学アントレプレナーシップ教育プログラムの成果報告を行いました。起業を「会社をつくること」に限定せず、「社会課題を解決するために価値を創造する力」と捉える教育理念のもと、受講学生によるビジネスプラン発表を実施しました。発表では、テーマパークの待ち時間を快適な体験へ変える予約システムや、旅館の人手不足と地域活性化を結び付ける人材マッチングサービスなど、多様な社会課題に挑戦するアイデアが披露され、学生の成長を実感できる内容となりました。





第2部では、株式会社シンミドウ代表取締役 笹田知弘氏、株式会社ユニゴ代表取締役 望月雄登氏を講師に迎え、創業の経緯や事業拡大、資金調達、組織づくりなど、スタートアップの最前線について講演いただきました。実体験に基づく率直な講演は、学生だけでなく企業関係者にも多くの示唆を与えました。

講演後の交流会では、参加者同士が活発に意見交換を行い、産学官の枠を超えた新たなネットワークが形成されました。本研究会は、地域におけるスタートアップ・エコシステムの構築と価値創造人材の育成を目指し、今後も継続して開催してまいります。



## データサイエンス研究会

代表：平松 薫（大学院理工学研究科・教授）　事務局：金谷 康弘（産学官連携シニアコーディネーター）



2025年度第３回のデータサイエンス研究会は、「経験則とデータ分析の組み合わせ方」をテーマに設定し、2026年3月18日（水）に実施しました。データ分析においては、分析対象への理解が不可欠です。それに基づく分析によって、新たな知見が得られることもあれば、現場の経験則が裏付けられることもあります。そして、その成果を現場で有効活用するためにも、分析結果と現場の経験則を融合させて活用することが重要となります。

研究会では、オープンデータとして公開されているロンドンのシェアサイクル利用データを事前配布し、参加者には各自の分析結果を持ち寄っていただきました。当日は前半、多変量時系列データ分析に関する座学を行い、後半には、分析結果の共有と議論を行うワークショップを実施しました。

シェアサイクルは身近な存在であり、利用イメージを想像しやすい移動手段です。その利用データに多変量時系列データ分析を適用することで、データ間の相関の発見や異常の検知が可能になります。今回の研究会では、参加者がこれまでの経験から思い描いていたシェアサイクルの利用イメージがデータ分析により実証できただけでなく、想定外のデータ変化の発見から現地で起こっていたと想像される非日常的なイベントを推測していただくなど、活発な議論が行われました。

2026年度も引き続き年３回の研究会開催を予定しています。皆様のご参加を引き続きお待ちしております。

Report 4

## 「大学見本市2026～イノベーション・ジャパン」へ出展

今年も「大学見本市2026～イノベーション・ジャパン」に出展しました（会期：8月27日（木）、28日（金）／東京ビッグサイト）。本イベントは、科学技術振興機構（JST）が主催する、大学等における研究シーズと産業界のニーズをマッチングする国内最大規模の産学連携イベントです。




23回目の開催となる今回は、全国136の大学等機関から280件の特許技術シーズが6分野に分かれて出展されたほか、大学発スタートアップ16社による展示も行われました。

2日間の総来場者数は11,690名に達し、多方面から高い注目を集めました。埼玉大学からは、シーズ展示として大学院理工学研究科の教員4名による研究成果が採択・出展しました。さらに、埼玉大学発スタートアップ企業として初めての出展も行いました。（出展者参照）

会場では、来場者と出展者の間で活発な意見交換が行われ、セミナーも盛況となるなど、参加者の関心の高さがうかがえました。また、刊行物『埼玉大学研究シーズ集 2025-27』を配架し、多くの来場者に手に取っていただくことができました。




今回出展した各技術シーズについては、11月25日開催の「産学交流会テクノカフェ」においてポスター発表を行う予定です。ぜひご参加いただき、最新の研究シーズに触れていただければ幸いです。

| 大学発シーズ展示 出展者 | | |
|---|---|---|
| 綿貫 啓一　教授 | 健康・医療 | 音でストレスを整えるメンタルケアシステム |
| 石川 良　准教授 | カーボンニュートラル・環境 | ペロブスカイト太陽電池の多層一括成膜技術 |
| 柳瀬 郁夫　准教授 | カーボンニュートラル・環境 | 空気中の水蒸気を活用したDAC用無機材料 |
| 塩田 達俊　准教授 | AI・情報通信 | 産業・医療の検査を革新！高速・非接触３次元イメージング |
| **大学発スタートアップ展示 出展者** | | |
| 蔭山 健介　教授(株式会社FeelSensing) | 食料・農林水産 | 植物の応答を音で可視化する栽培支援プラットフォーム |

（2026年3月～ 2026年6月 入会申込順）

埼玉大学産学官連携協議会

# 新会員紹介

DATA ▶▶ ①事業内容 ②本社所在地 ③連絡先 ④設立年月日 ⑤代表 ⑥社是またはモットー

## 1 一般社団法人モリンガの森プロジェクト協会

モリンガの植林を起点として、社会課題の解決に向けた活動を様々行っております。

主に宮古島にてモリンガの植林活動しており、現在約4000本程のモリンガを植えています。沖縄ではモリンガは越冬するので、3年生・5年生、20年生のモリンガも存在します。そういったモリンガの$CO_2$吸収力の測定なども埼玉大学と連携して取組みたいと考えております。

また宮古島市と連携協定に向けて動いており、埼玉大学×さいたま市×宮古島市との連携も図っていきたいです。

① モリンガの植林・栽培・製品化、環境セミナー等
② 東京都台東区根岸2-2-4
③ https://moringa-forest.com/
④ 2022年（令和4年）5月2日
⑤ 代表理事　矢部 剛
⑥「モリンガの植林を起点として、社会課題を解決する」




## 2 マルキユー株式会社

マルキユー株式会社は、自然との共生を大切にしながら、釣りの楽しさと豊かさを追求する製品づくりをおこなっています。素材研究から製造まで一貫した体制で、高い実釣性能と環境配慮の両立を目指した釣りエサ・釣り用品を開発。釣り人の期待に応える品質と技術で、釣り文化の発展に貢献しています。

① 釣りエサ・釣り具の製造販売、テナント事業
② 埼玉県桶川市赤堀2-4
③ https://www.marukyu.com/
④ 1910年（明治43年）10月
⑤ 代表取締役社長　岡田 信義
⑥ 我社は夢と希望を持って、社業を通じて環境保全と釣り文化の創造を図り、社会に貢献します。



本社・桶川工場社屋/埼玉県桶川市

Report 5

# 「3D-CAD&3Dプリンター研修（さいたま市連携事業）」を実施

今年度は、受講者アンケートや研修運営で得られたご意見を踏まえ、各コースの内容や設備の充実を図りました。

好評をいただいている「3D-CAD基礎コース」の特別編として、「医療・介護のための3Dものづくり入門」コースを今年度も開催いたしました。当日は、埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科の小池祐士准教授、埼玉大学大学院理工学研究科の阿部壮志准教授によるご講演も実施し、医療・介護分野における3Dものづくりの活用事例や最新動向についてご紹介いただきました。





また、昨年度新設した「3D-CAD実践ワークショップコース」では、受講者が主体的にモデリングや造形に取り組む自由演習形式を採用しています。今年度は、「具体的な課題があれば取り組みやすい」とのご意見を踏まえ、新たに課題を設定し、より実践的に学べる内容としました。

さらに、例年多くの応募をいただいている「3D-CAD実践&造形コース」については、受講希望者の増加に対応するため、昨年度より開催回数を1回増やしました。

「3D-CADによる応力解析コース」では、今年度から生成AIを活用した内容を取り入れ、設計や解析業務の効率化につながる手法について学べる構成としています。

設備面では、従来使用している3Dプリンター「Adventurer3」から、より高性能な「Adventurer5M Pro」への更新を順次進めています。現在は一部の研修で使用しており、造形速度の高速化や造形可能サイズの拡大による効果を、受講者に実際に体験いただいています。

今後も受講者のニーズを踏まえながら、実践的で魅力ある研修の提供に努めてまいります。



# 会員企業訪問記

学生レポーター
長塩秀行　福沢大雅
久保田偉月　堀之内萌
ヒューマンインターフェイス研究室




## 株式会社モリタ東京製作所

『開発から製造まで、一貫品質で未来を創る。』

COMPANY PROFILE

所　在　地：埼玉県北足立郡伊奈町小室7129番地
設　　立：1969年11月1日
代　表　者：代表取締役社長　小倉 誠
事業内容：歯科用・医科用・動物用医療機器の製造・販売

## 1 概要

株式会社モリタ東京製作所は、埼玉県伊奈町に本社を置く医療機器メーカーです。1969年の創業以来、歯科用医療機器の製造・販売を中心に事業を展開しており、歯科用チェアユニットや歯科技工用機器など、幅広い製品を手掛けています。また、現在では医科用・動物用医療機器にも事業を広げており、製品の開発設計から販売までを一貫して行っています。



## 2 TOPICS

### 高いシェアを誇る歯科用チェアユニット

モリタ東京製作所では、歯科用チェアユニットをメインに製造しており、業界でもトップの売上を誇っています。歯科用チェアユニットは主要メーカーが限られており、新規参入が難しい業界である一方、歯科医療は安定した需要があり、歯科医院内設備の定期的な更新も必要となるため、長期的に安定した収益が見込めるという特徴があります。

また、製品のデザインにも強いこだわりがあり、一目見ただけでモリタの製品だと分かるブランド性を大切にしています。ポルシェ911のデザインで知られるStudio F. A. Porscheと共同でデザインした「シグノTシリーズ」のうち、シグノT500は、2019年にRed Dot Award: Product Designの最高位「Best of the Best」を受賞しています。



### 一貫生産による幅広い経験

同社では、製品開発に必要な情報収集から企画、設計、製造まで、一貫して自社で行う体制を取っています。この体制によって、多くの部署と関わりながら仕事をすることができ、幅広い視野を身につけられるそうです。また、製造工程でも一定期間ごとに担当が入れ替わるため、さまざまな工程を経験できる点が特徴とのことでした。

### DXへの挑戦

従来の機械づくりだけでなく、全社でデータを共有・活用し、業務プロセスの効率化を推進するDXにも力を入れています。また、製品開発の例では、口腔内写真をAIが約30秒で解析し、口腔がんや白板症などの疑いを検出して歯科医師の判断を支えるプログラム医療機器の開発を行っているそうです。

## 3 学生目線

今回、若手社員の方からお話を伺い、若いうちから実際の製品づくりに携われることが魅力だと感じました。工場の入口付近には現在製造しているチェアユニットの最終検査工程が観察できるレイアウトの工夫がされており、日々、自分が携わっている製品を目にすることで、ものづくりへの実感を得られるそうです。

また、歯科医療を支える製品であるため、人々の健康や食事を支える仕事であることにもやりがいを感じると伺いました。安定した需要があることに加え、若いうちから社会に役立つ製品に関われる点は、大きな魅力だと感じました。

実際に工場を見学して、社員の皆様の距離の近さも印象に残りました。社員同士だけでなく、上司の方とも気軽に話されており、和気あいあいとした温かい雰囲気を感じました。

### おわりに

今回の企業訪問では、歯科用チェアユニットの製造現場を見学するとともに、製品づくりへのこだわりや、若手社員の方の仕事に対する思いを知ることができました。また、これまで培ってきたものづくりの技術を大切にしながら、DXなど新しい技術にも挑戦している姿勢が印象に残りました。この度はお忙しい中、貴重なお時間をいただき、丁寧にお話しくださった社員の皆様に心より感謝申し上げます。



2026年度 オープンイノベーションセンター

# 産学官連携活動カレンダー（予定表）

| 月 | 日 | イベント | 場所 | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 2(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD基礎コース | 埼玉大学 | |
| | 6(火) | JST ～首都圏北部4大学連合～ 新技術説明会 | オンライン | |
| | 9(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD医療･介護のための3Dものづくり入門コース | 埼玉大学 | |
| | 23(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD応用コース | 埼玉大学 | |
| | 27(火) | スタートアップ･新規事業創出研究会 | 埼玉大学 | ★ |
| | 30(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD基礎コース | 埼玉大学 | |
| | | 第3回　埼玉大学産学官連携協議会　運営委員会(予定) | メール審議 | ★ |
| 11 | 5(木)～ 6(金) | 第16回　おおた研究･開発フェア | 大田区産業プラザPiO | |
| | 6(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD基礎コース | 埼玉大学 | |
| | 13(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD実践＆造形コース | 埼玉大学 | |
| | | 第21回　東和新生会　ビジネス交流会 | Gメッセ群馬 | |
| | 20(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD応力解析コース | 埼玉大学 | |
| | 25(水) | 第27回　埼玉大学産学交流会　テクノカフェ | 埼玉大学 | ★ |
| | 28(土)～ 30(月) | 第77回　埼玉大学むつめ祭 | 埼玉大学 | |
| | | 埼玉グリーンインフラSDGs研究会(予定) | 埼玉大学 | ★ |
| 12 | 3(木) | 第3回　SAITAMA　スタートアップ･エコシステム　シンポジウム | 浦和コルソ | |
| | 4(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD基礎コース | 埼玉大学 | |
| | 11(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD応用コース | 埼玉大学 | |
| | | 埼玉県経営者協会主催　埼玉大学特別公開講座 | ソニックシティビル | |
| | 17(木)～ 18(金) | たま未来連携　EXPO2026 | 東京たま未来メッセ | |
| | 18(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD2次元設計コース | 埼玉大学 | |
| | | データサイエンス研究会(予定) | 埼玉大学 | ★ |
| 1 | 15(金) | 3D-CAD&3Dプリンター研修　3D-CAD実践ワークショップコース | 埼玉大学 | |
| | | 令和8年度　埼玉りそな産業経済振興財団　産学官連携セミナー | 埼玉大学 | |
| 2 | | 埼玉大学オープンカンパニー | オンライン | ★ |
| | | 3D-CAD&3Dプリンター研修　活用事例報告会 | 埼玉大学 | |
| 3 | | スタートアップ･新規事業創出研究会(予定) | 埼玉大学 | ★ |
| | | データサイエンス研究会(予定) | 埼玉大学 | ★ |
| | | 第4回　埼玉大学産学官連携協議会　運営委員会(予定) | メール審議 | ★ |

★埼玉大学産学官連携協議会関連事業

埼玉大学産学官連携協議会

## 第27回 テクノカフェ

**埼玉大学産学交流会テクノカフェを開催いたします。**
**多くの皆さまのご参加をお待ちしております。**

| | |
|---|---|
| 日　時 | 2026年11月25日（水）14:00～18:00（予定） |
| 会　場 | 埼玉大学　総合研究棟1号館1階 シアター教室 ほか |
| 第1部 | 大学研究シーズのご紹介　大学教員研究成果等の事例発表 |
| 第2部 | 基調講演　「挑戦する人材を育てる教育 ～ イノベーションを生み出す人と組織をどう育てるか ～」<br>講師　武蔵野大学アントレプレナーシップ学部　学部長　伊藤 羊一氏 |
| お申込み | 事前登録制　右記のQRコードを読み取り、参加申込フォームからお申し込みください。<br>申込URL: https://forms.cloud.microsoft/r/V6jUC59q0h |

発行
埼玉大学産学官連携協議会

〒338-8570
埼玉県さいたま市桜区下大久保255　埼玉大学オープンイノベーションセンター内
TEL：048-858-9064　E-mail：s-kyougikai@gr.saitama-u.ac.jp
URL：https://www.saitama-u.ac.jp/research/coalition/kyougi/kyougi_about/

ニュースレターに関する簡単なアンケートにご協力お願いします